

## 平成28年度私立幼稚園・私立小学校等の給食・牛乳の放射能測定結果

提供期間	品目	採取施設名	日数	摂取量 (kg)	検査結果 (Bq/kg) ※検出限界値:0.7Bq/kg			給食及び牛乳1週間分の放射性セシウムによる内部被ばくの実効線量(μSv)
					ヨウ素 131	セシウム 134	セシウム 137	
5月16日(月曜)～ 5月20日(金曜)	給食	東洋英和女学院小学部	5	4.885	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.08207μ Sv未満
	牛乳		5	2.060	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.03461μ Sv未満
5月23日(月曜)～ 5月27日(金曜)	給食	聖徳学園三田幼稚園	4	0.340	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.00538μ Sv未満
	牛乳		1	0.120	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.0019μ Sv未満
9月12日(月曜)～ 9月16日(金曜)	給食	東洋英和女学院小学部	5	3.190	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.05359μ Sv未満
	牛乳		4	0.840	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.01411μ Sv未満
9月20日(火曜)～ 9月23日(金曜)	給食	聖徳学園三田幼稚園	3	0.427	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.00676μ Sv未満
	牛乳		1	0.200	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.00316μ Sv未満
1月23日(月曜)～ 1月27日(金曜)	給食	東洋英和女学院小学部	5	2.434	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.04089μ Sv未満
	牛乳		5	1.030	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.0173μ Sv未満
1月16日(月曜)～ 1月20日(金曜)	給食	聖徳学園三田幼稚園	4	0.380	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.00601μ Sv未満
	牛乳		1	0.180	<0.7	<0.7	<0.7	0 ～ 0.00285μ Sv未満

\*各園・校で提供している給食のメニュー、食材・牛乳の産地及び原産地等については、各幼稚園・小学校にお問合せください。

\*測定結果が検出限界値(0.7Bq/kg)未満の場合、内部被ばくの実効線量はセシウム134、137が、それぞれ0から検出限界値(0.7Bq/kg)まで含まれていたと仮定して計算しています。

\*厚生労働省の新基準では、食品から許容することのできる放射性セシウムの線量を年間1mSv(ミリシーベルト)としています。この値は、食品の国際規格を作成しているコーデックス委員会の指標「年間1mSv」を超えないように設定されています。[1mSv = 1,000μ Sv]

\*摂取量とは、当該の1週間で摂取した総量で算出しています。(小学校は中学年を基準としています。)

\*内部被ばくの実効線量とは、給食・牛乳に含まれる放射性物質(セシウム134及びセシウム137)により、人体が受ける放射線の影響を示すものでシーベルト(Sv)で表します。(ヨウ素131は半減期が短く、新基準値の対象外のため、実効線量の算出は行いません。)

\*測定結果が検出限界値(0.7Bq/kg)未満の場合、内部被ばくの実効線量はセシウム134、137が、それぞれ0から検出限界値(0.7Bq/kg)まで含まれていたと仮定して算出しています。

### 【給食及び牛乳にかかる1週間分の実効線量の算出方法】

※実効線量の換算係数は「緊急時における食品の放射能測定マニュアル(厚生労働省、平成14年3月)」を参照しています。

〔換算係数〕	対象	セシウム134 (μSv/Bq)	セシウム137 (μSv/Bq)	備考
	幼児	0.013	0.0096	幼稚園児、保育園児の内部被ばくの実効線量算定に使用する換算係数。
	少年	0.014	0.010	小学生の内部被ばくの実効線量算定に使用する換算係数。
	青年	0.019	0.013	中学生の内部被ばくの実効線量算定に使用する換算係数。

●セシウム134:(検出値×摂取量×換算係数) + セシウム137:(検出値×摂取量×換算係数) = 実効線量